

「平成 29 年度愛知県内のブラジル人学校に対する調査」についての報告（詳細）

1、概要

平成 29 年 5 月 1 日現在、愛知県内に 12 校のブラジル人学校の所在を確認しており、1,155 人の生徒（内 676 人が義務教育年齢）がブラジル人学校に在籍している。

〈ヒアリング調査を行ったブラジル人学校一覧とその所在地〉

学校名	所在地
伯人学校イーエーエス豊橋	豊橋市
伯人学校イーエーエス豊田	豊田市
伯人学校イーエーエス碧南	碧南市
学校法人カンティーニョ学園	豊橋市
エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	碧南市
エスコーラ・ネクター	豊田市
エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	瀬戸市
エスコーラ・ピントンド・オ・セチ	豊田市
エスコーラ・サンパウロ	安城市
アルファキリスト学園 (平成 29 年 10 月に名称変更) 現アイチ・エスコ ーラ・クリスターン	稲沢市
エスコーラ・エスプレッサオン	半田市
カンティーニョ・ダ・チーア・シエシエラ	岡崎市

2 アンケート調査

(1) アンケート項目

ブラジル人学校に対して平成 29 年 5 月時点でのアンケート調査を行った。アンケートの質問項目は参考資料の通りである。また、アンケートは日本語とポルトガル語の両言語で行っている。

ア 目的

本調査は、愛知県に所在が確認されているブラジル人学校の現状を把握し、それぞれの教育課程（就学前、基礎、中等）に就学している子どもの数を把握することを目的としている。

イ 調査期間

2017 年 5 月 1 日～2018 年 3 月 5 日

ウ 調査対象者

愛知県内に住所を有し、愛知県が所在の確認をしているブラジル人学校

エ 調査方法

2017 年 5 月 1 日以降から郵送にてアンケート調査協力依頼をそれぞれのブラジル人学校の校長先生宛に郵送し、郵送または、ヒアリング調査時に提出を依頼した。

オ 回収状況

回収数 12 校／12 校 回収率 100%

(2) 集計結果

① 提供している課程とその人数について

	学校名	就学前	基礎	中等
1	伯人学校イーエーエス豊橋	12	127	58
2	伯人学校イーエーエス豊田	12	138	78
3	伯人学校イーエーエス碧南	10	190	109
4	学校法人カンティーニョ学園	0	107	35
5	エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズ※1	38	25	0
6	エスコーラ・ネクター	3	4	4
7	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	1	11	2
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セチ	23	37	0
9	エスコーラ・サンパウロ	10	21	13
10	エスコーラ・エスプレッサオン	28	8	0
11	アルファー・インターナショナル・キリスト学園	2	8	1
12	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシェラ	40		
小計		179	676	300
合計		1155		
※1 基礎は小学校5年生まで				

② 子どもの国籍とその使用言語について

	学校名	Q3子供の国籍					Q4学校で主として使用する言語			
		ブラジル	ペルー	フィリピン	日本	ベネズエラ	ポルトガル語	スペイン語	日本語	英語
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○					○			
2	伯人学校イーエーエス豊田	○					○			
3	伯人学校イーエーエス碧南	○					○			
4	学校法人カンティーニョ学園	○					○			
5	エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズ	○					○			
6	エスコーラ・ネクター	○			○		○		○	○
7	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○		○	○		○	○
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セチ	○					○			
9	エスコーラ・サンパウロ	○					○			
10	エスコーラ・エスプレッサオン	○					○		○	
11	アルファー・インターナショナル・キリスト学園	○					○			
12	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシェラ	○	○	○	○		○			
計		12	2	2	2	1	12	0	3	2

③ 一週間あたりの日本語授業時間

- ・小学校 180 分、中学校・高校 45 分、個別授業 90 分、180 分、360 分（個別授業は生徒の希望に合わせて週 90 分、180 分、360 分の 3 つのコースを設けている。
- ・幼児・小学校 9 コマ、日本語活動週 14 コマ、高校週 4 コマ（1 コマの時間数は、幼児各 30 分、小学校各 30 分、高校各 40 分です）
- ・その他 18 時間、9 時間、8 時間、4 時間、2 時間、各学年 1 時間です。（18 時間の学校は、補修授業を 3～6 年生を対象に行っており、それぞれ+1 時間指導を行っている。）

使用している教材について

- ・独自教材「にほんごではなそう」前期・後期小学 2 年～5 年、「みんなの日本語」スリーエーネットワーク、「みえこさんの日本語」（公財）三重県国際交流財団
- ・「ちからをつけよう IQ. EQ 開発シリーズ」永岡書店、「一年生のにほんご」むぎ書房、「にほんごではなそう 3 年～5 年」学校法人イーエーエス伯人学校独自教材
- ・「ぶん、ひらがな、カタカナのおけいこ」精興社、「かず、ことばと文等」学習研究社、「足し算、引き算、Meu Amigo Kanji 等（プロジェクトトゥカーノ）」東京外国語大学
- ・「あたらしいこくご・新しい国語 1 年～6 年」東京書籍、「ひろこさんのたのしいにほんご 1・2」凡人社、「こどものにほんご 1・2」スリーエーネットワーク、「みんなの日本語初級 1・2」スリーエーネットワーク、日本語能力試験問題集、自作教材、中学英語教科書ニューホライズン東京書籍
- ・「ひろこさんのたのしいにほんご 1・2」凡人社「やさしいひらがな 1、やさしいカタカナ、漢字おけいこ」くもん出版
- ・「こどもの日本語 1・2」スリーエーネットワーク
- ・「にほんごだいすき」むぎ書房、「公文ひらがなカード」くもん出版
- ・ひろこさんの日本語 1 凡人社、日本語学級 1、日本語を学ぼう 文部科学省

④ 学校の経営状況は去年と比べてどう変化したか。

	学校名	さらに悪くなっている	去年と同じくらい厳しい状況	去年より良くなっているが、まだ厳しい状況	去年と変わらず、特に問題ない	去年より回復している
1	伯人学校イーエーエス豊橋			○		
2	伯人学校イーエーエス豊田			○		
3	伯人学校イーエーエス碧南			○		
4	学校法人カンティーニョ学園			○		
5	エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズ			○		
6	エスコーラ・ネクター			○		
7	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸		○			
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セチ		○			
9	エスコーラ・サンパウロ			○		
10	エスコーラ・エスプレッサオン			○		
11	アルファー・インターナショナル・キリスト学園				○	
12	カンティーニョ・ダ・チーア・シェセラ			○		
	計	0	2	9	1	0

⑤ ブラジル人学校の役割をどのように考えているか。(複数回答可)

	学校名	母国の文化や言語を教える	子どもが母国に帰国した時のため、母国の学校で勉強についていけるよう	子どもが日本の学校に入学したときのため、日本の学校で勉強についていけるように指導する	日本の学校で外国人児童生徒の受け入れ体制が不十分な部分を補う	その他意見
1	伯人学校イーエーエス豊橋		○	○		
2	伯人学校イーエーエス豊田		○	○		
3	伯人学校イーエーエス碧南		○	○		
4	学校法人カンティニーニョ学園	○	○			
5	エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	○	○			
6	エスコーラ・ネクター	○	○	○	○	
7	エスコーラ・パウロフレイレ瀬戸	○	○	○	○	
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セチ		○		○	
9	エスコーラ・サンパウロ	○	○		○	
10	エスコーラ・エスプレッサオン	○	○	○		
11	アルファー・インターナショナル・キリスト学園	○	○	○	○	
12	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	○	○	○	○	
	計	8	12	8	6	0

⑥ 子どもへの健康診断を実施しているか。また実施している場合その検査項目は何か。

	学校名	未実施	身長・体重	栄養状態	背骨・胸の骨格の病気及び異常の有無	視力・聴力	目の病気及び異常の有無	顔・耳・鼻・口・喉・皮膚の病気	歯・口腔の病気及び異常の有無	結核の有無	心臓の病気及び異常の有無	尿	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋		○			○							
2	伯人学校イーエーエス豊田		○			○							
3	伯人学校イーエーエス碧南		○			○							
4	学校法人カンティニーニョ学園		○		○	○					○	○	
5	エスコーラ・セメンティニーニャ・デ・ジェズ※1	○											
6	エスコーラ・ネクター	○											
7	エスコーラ・パウロフレイレ瀬戸		○										
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セチ		○				○	○	○			○	
9	エスコーラ・サンパウロ		○	○		○	○	○				○	
10	エスコーラ・エスプレッサオン			○	○	○		○	○		○	○	
11	アルファー・インターナショナル・キリスト学園		○			○	○		○				
12	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシェラ		○			○			○				
計		2	9	2	2	8	3	3	4	0	2	4	0

⑦ 職員への健康診断を実施していますか。また実施している場合、その検査項目は何か。

	学校名	未実施	身長・体重・腹囲	視力・聴力	結核の有無	血圧	尿	胃の病気及び異常の有無	貧血検査	肝機能検査	血中脂質検査	血糖検査	心電図	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○												
2	伯人学校イーエーエス豊田	○												
3	伯人学校イーエーエス碧南	○												
4	学校法人カンティニーニョ学園		○	○	△※1	○	○		○		○	○	○	
5	エスコーラ・セメンティニーニャ・デ・ジェズ	○												
6	エスコーラ・ネクター	○												
7	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸		○											
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セチ						○							
9	エスコーラ・サンパウロ					○	○				○	○		
10	エスコーラ・エスプレッサオン		○	○		○	○					○	○	
11	アルファー・インターナショナル・キリスト学園		○	○										
12	カンティニーニョ・ダ・チーア・シエシェラ	○												
計		6	4	3	1	3	4	0	1	0	2	3	2	0

※1 毎年病院からアンケートが送られてそのアンケートに答えている。

3 ヒアリング調査

2017年5月から2018年2月にかけて、県内に所在を確認しているブラジル人学校に伺いヒアリング調査を行った。また、日本語の授業がある学校には、日本語の授業の見学を行った。そこから得られた学校側が抱える課題と、ブラジル人学校に通う生徒が抱える課題について現状把握を行った。

愛知県内には、各種学校の認可を受けている学校は、11校中4校である。E A S (Escola Alegria de Saber 豊田校、豊橋校、碧南校) とカンティニーニョ学園 (Escola Cantinho Brasileiro) である。学校によっては、日本語を教えるのが、日本人の日本語教師ではなく、ブラジル人の学校もあった。

以下は、ヒアリング調査時に各学校の校長先生や担当の方から伺った、学校側と生徒側が抱える課題についてまとめたものである。

(1) 各種学校の認可について

- ・校舎や土地が賃貸の場合は認可を受けるのが難しい
- ・土地を借りたくても断られる事が多い
- ・周辺住民の理解が得られず、偏見のある方がまだいる
- ・認可を申請すると経理を担当する人を雇わなければならなくて、経済的に負担が大きい。書類をそろえるのが大変。
- ・認可を受けるのに、費用や規模の問題があり、生徒数が足りないこともあり、申請をするのが難しい
- ・インターネットや「文部科学省委託研究平成21年度外国人教育に関する研究ブラジル人等の教育機会の現状と課題についてブラジル人学校の準学校法人設立・各種学校認可の課題」の公開研究報告会の資料を見て参考にしたこともあるが、具体的に何をクリアしていけばいいのかが書いていなかった。
認可を受ける際に、何をクリアすればいいのかをはっきりと教えてくれれば当校もそこを目指して具体策を考えることができるが、申請を出した際に「～がダメだから申請は受けられない」などの説明がなく、申請を断られるとどうすべきか分からない。何が「ダメ」なのかを分かるように教えて欲しい。
- ・愛知県には認可についてポルトガル語で翻訳されたものはないのか
- ・認可を受けていないが、障害を持った子を受け入れている学校に対して何か補助はあるのか。
- ・各種学校の認可を受けていないために、生徒は電車通学の学生割引が使えない。

(2) 日本の学校への転校・高校・大学進学と就職について

- ・当校は日本の大学に進学する方法やシステムを知らないで、日本の大学のシステムや入学方法、奨学金に関する情報が欲しい
- ・日本の大学に進学させるためにどうすればいいのを知りたい。日本の高校の先生は基本的に外国人の生徒には、国際学科や英語を勉強する学科の大学に進学するように勧める。実際に当校に通う生徒も、国際学科に通っている。しかしすべての生徒が英語や言語を勉強したいわけではない。このように他の学科や大学についての情報が欲しいので、県からそのような情報を提供して欲しい。
- ・愛知県の高校の入試制度についてももう少し外国人の子どもが分かるような情報はないのか。
- ・当校は他校と違い、進学説明会と就労説明会を年に2回行っている。就労説明会では、外国への就労と日本への就労について説明をし、日本とブラジルに関わりを持っている企業に実際に学校に来て説明をしてもらっている。進学説明会では、実際に日本の大学に来てもらい、説明をもらっている。
- ・高等部を卒業後、ほとんどの生徒はブラジルに帰国をしないで、日本の工場で働いている。日本語が話せないこともあり、工場という選択肢しかないからだ。
- ・ほとんどの生徒は卒業後、工場で仕事をしている。それは、日本で生活をしている中で目的もなく生きているからである。生徒は「お金を貯めて好きなものを買う」という生活に憧れ、仕事をし始めると結局そのような生活を送ってしまう。
- ・親が日本に残るのか、いつかブラジルに帰るのかをはっきりさせないため、子どもも自分の進路の選択に迷ってしまい、非行に手を染めてしまう子が増加しているように思う。そして、親は仕事のことしか考えないため、子どものことを心配していないのが現状だと思う。半分の親が保護者会に参加してくれたら学校としてはうれしいが、現実はそうではない。
- ・日本の公立学校に転校する時に、当校からの日本語のサポートが不十分であると感じている。
- ・経済的な理由により、月謝が払えなくなると、親は子どもを日本の公立学校に編入させることが多い。

(3) 健康診断の実施と親の理解について

- ・毎年8月に生徒と教職員を対象に病院の先生に来校してもらい健康診断を行っている。費用は学校が18万円ほど全額負担している。しかし、健康診断を行う際、事前に親に生徒の間診票を記入してもらっているが、親によっては間診票すら記入してくれない。無料で受けられるのに、そのような小さなことですら協力してくれない親もいる。

- ・当校は、日本赤十字看護大学と連携をしており、健康診断を行ってもらっている。

参考資料

- 1、アンケート日本語版
- 2、アンケートポルトガル語

